

日陰から陽のあたる場所へ

スワプナ・マジュムダール (インド)

インドでは、社会的に隅に追いやられた部族地域出身の女性が、上位カーストの人々が持つ権力やお金の力に立ち向かうには、勇敢なだけでは太刀打ちできません。これから、日雇い労働者だったジャヤンティーさんが、インドで最も人口の多いウッタル・プラデーシュ州にある地方自治体の首長となるまでの道のりをご紹介します。多くの周縁化された女性たちが政治的エンパワーメントを高め、新たな時代を切り拓こうとしています、これはその象徴となるような話です。

ジャヤンティーさんのような女性が力を増している背景には、自助グループ(self-help group: SHG)による団結の力があります。集団として力を合わせることで、女性たちは家に閉じこもるのではなく、自らの権利を守るために立ち上がる自信を得ることができました。「もしも SHG に所属していなかったら、グラム・パンチャーヤットと呼ばれる村議会の選挙に立候補する勇気など全く無かったと思います」と 30 歳のジャヤンティーさんは言います。

実際、彼女たちが成功を信じて一步前に踏み出すまでに、約 7 年もの歳月を要しました。2008 年、女性のエンパワーメントと貧困の軽減を目指して活動を行っているラジブ・ガンジー財団の女性開発支援計画(RGMVP)は、ウッタル・プラデーシュ州の南部に位置するブンデールカンド地域の 7 県のうちの 3 県に、初めて SHG を作りました。当初、女性の多くが家から外に出たことも無く、SHG にあまり乗り気ではありませんでした。SHG に所属する女性の一番の目的は少額貯蓄と少額融資ではありますが、毎週開かれるミーティングに参加することで、女性の権利や資格についての情報もメンバーに伝わり、選挙で自分が投じる一票の重さや村議会の重要性、さらにこのような地域レベルでの政治制度がいかに地元の発展につながるか、などを学ぶことにも繋がっています。ひとつの SHG は 10~15 人のメンバーで構成されており、ブンデールカンド地域には 11,435 ヶ所の SHG がありますが、2015 年に行われた選挙においてこれらの SHG は極めて重要な役割を果たしました。メンバーの女性たちが SHG で学んだことを活かして一票を投じただけでなく、思い切って選挙に参戦する者まで出てきたのです。

2015 年 10 月、州内の村議会選挙が 2 か月後に行われることが発表されると、RGMVP が設立したブンデールカンド地域内の SHG に所属するおよそ 10 万人の女性が、村の連合組織による後援のもと、重大な決断を下すために会合を開きました。村の政治情勢をうかがい、チャンスを狙う時が来たのでしょうか？彼女たちが下した決断は、満場一致の「賛成」でした。今こそ、自分たちが長年求めてきた変革の担い手になるべきだと決意したのです。

自ら変革を起こす

彼女たちの決断が正しかったかどうかは、SHG が擁立した 52 名の立候補者のうちの約半数である 23 名が当選すればはっきりするはずでした。特に、ブンデールカンド地域の 4 県のうちのラリトプル県とジャンシー県の 2 県が、擁立した立候補者数で先頭に立っていました。そして結果は、ラリトプル県では 16 名の立候補者のうち 9 名が勝利を収め、ジャンシー県では 21 名のうち 13 名が当選を果たしました。

ラリトプル県のラジャワン村議会選挙では、選挙区内の 10 ヶ所の SHG が今こそ男性候補の牙城に切り込みをかけるべきだと判断しました。「これまでずっと男性の村議会議長に村政を任せてきましたが、村の発展は感じられませんでした。ジャヤンティーさんならもっと良い仕事をしてくれるだろうと思います」と SHG のコーディネーター、ラリタ・ドゥベイさんは言います。

選挙区内の10名の男性候補に交じり、ジャヤンティーさんが唯一の女性候補だということで、女性メンバーたちは選挙キャンペーンを展開することにしました。具体的には、女性メンバーが寄せた個人的な献金でパンフレットを作成し、自分たちの手で配布しました。また、夜間に会合を開いて戦略の見直しや練り直しも図ったほか、戸別訪問も行いました。

最初に乗り越えなくてはならないハードルは、家庭の中にもありました。「家族にジャヤンティーさんに投票するようお願いすると、義父は拒否しました。一家はこれまでずっと男性候補に投票してきたのだ、と。それは激しい抵抗に遭いました。女性にチャンスを与える時が来たのだと義父を説得するのに数日間かかりました」とSHGのメンバーのラクミさんは振り返ります。

女性メンバーたちはつましい生活を送っており、集団の力を拠り所にキャンペーンを行いました。それぞれのメンバーが、自分たちの村落で評判を広めて回りました。男性の対抗馬やその支持者の多くは権力のあるコミュニティの出身でしたが、女性たちが醸成した機運が彼らに揺さぶりをかけました。また、ジャヤンティーさんは選挙戦から降りるよう脅迫めいたことを言われても、別に驚きませんでした。

闘志

しかし、さらにジャヤンティーさんを打ちのめそうとする動きがありました。彼女は落選したと告げられたのです。「選挙管理委員会が私に、選挙結果の承諾書に署名するよう求めてきました。私はいったんSHGのメンバーと協議し、票の数え直しを求めました」とジャヤンティーさんは言います。

選挙管理委員会がこの要望を拒むかもしれないと危惧した彼女たちは、県長官を訪ねました。「SHGのメンバーであるということが、自らの権利を明確に主張する自信と勇気を与えてくれたのです。私は県長官に対して票の数え直しを求め、同意を得ることができました。この勝利は、仲間たちと共に力を合わせて掴み取ったものです」とジャヤンティーさんは微笑みました。

ブンデルカンド地域の社会的に隅に追いやられた女性たちは、自助集団化することで自らが変革の担い手となる力を手に入れたのです。



日雇い労働者から村議会長となったジャヤンティーさんの存在は、私たちに勇気を与えてくれる